

伊勢湾貧酸素情報（第 1 報）

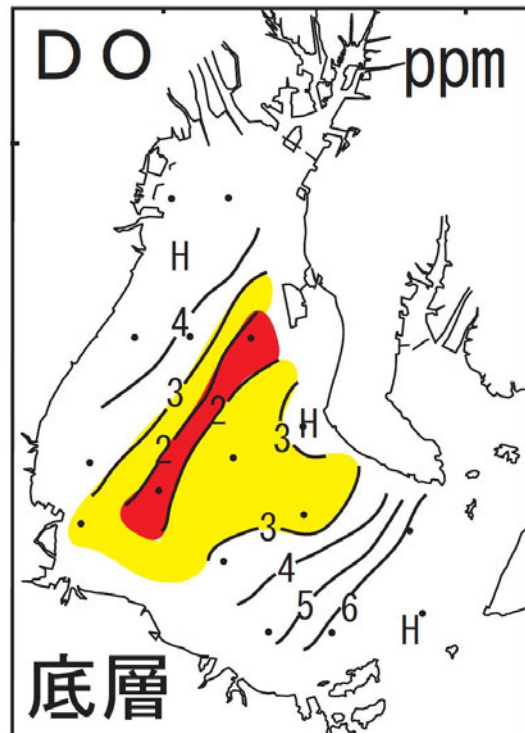
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量の低下が始まり，湾中央部で2ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

6 月 8 日の調査結果

6 月 8 日の調査船「あさま」の定線観測によると，水温は表層で 18.6～21.8℃，10m で 16.9～18.6℃，底層で 14.2～19.6℃の範囲にあり，表層ではやや低めから低め，10m と底層ではやや低めとなっていた。塩分は表層で 12.80～29.24，10m で 29.53～32.15，底層で 30.45～33.90 の範囲にあり，表層では低め，10m ではやや低め，底層では平年並となっていた。DO(溶存酸素量)は表層で 7.2～15.2ppm，10m で 4.5～7.2ppm，底層で 1.6～6.7ppm の範囲にあり，表層では湾奥部で高め，湾口部でやや高め，10m では平年並，底層では平年並で，湾中央部で 2ppm 以下の貧酸素水塊が形成されていた。

調査時は湾奥部から三重県沿岸の鈴鹿市沖にかけての表層では珪藻類のスケイトネマ コスタームによる赤潮が発生していた。表層では低塩分，底層では高塩分傾向にあるため，上下混合が起こりにくく，今後の水温上昇に伴って，底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ，今後，貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布